

特定事業者排出量削減計画書 **（新規・変更）**

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市伏見区深草向畑町1-1					
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 院長 藤井 信吾					
特定事業者の主たる業種	病院					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成20年 4月 ～ 平成 23年 3月					
基本方針	エネルギー消費効率の改善、廃棄物排出量の削減等を実施し二酸化炭素排出量5%削減を目指す。					
推進体制	院内の「サービス向上委員会」の委員を中心に省エネ、二酸化炭素排出量削減を訴え、職員一人一人に省エネに対する意識改革を行う					
	環境マネジメントシステム名称					
	適用範囲					
	取得年月日					
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容			
	20	事務部・病院全体	院内の共用部分（トイレ、廊下、共用スペース）のスイッチ部分に省エネ呼びかけのシールを貼り、節電を電力を5%削減			
	20	事務部・診療部門	物品等納入業者に対し、梱包材料の持ち帰りを求めるとともに、極力詰め替え、交換製品の購入を推進。			
	21-22	病院全体	20年度取組み事項の継続			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）		
	A 事業所等排出区分	5,752.1 t	5,464.5 t	-5.0 %		
	B 輸送車両排出区分	t	t	%		
	C その他排出区分	t	t	%		
	排出合計	5,752.1 t	5,464.5 t	-5.0 %		
目標設定の考え方	16年度を基準年度とする18年度～20年度の二酸化炭素削減計画においても削減割合を▲5%とし、3ヶ年最大限の努力をしてきたものの19年度（+6%）の結果となってしまったこと、これらの実績は、気候（気温）の外的要因に左右された結果である。今回の20年度～22年度の3ヶ年計画についても▲5%前削減目標値と同一目標値に設定したい考えである。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	
		二酸化炭素換算 （ ）			%	
		二酸化炭素換算 （ ）			%	
		二酸化炭素換算 （ ）			%	
	原単位の指標及び計画数値設定の考え方					
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）				
		取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）		t
	市内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）		t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）		t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）		t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）		t
削減量等合計				t		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動						
特記事項						

注1 該当する□には、レ印を記入してください。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。

6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。